

令和7年度 教育活動アンケート 概要

1 目的

- 学校が展開してきた教育活動に生徒・保護者・地域の理解と共感、支持が得られているかどうかを確かめ、さらなる改善に向けた課題形成を図るため
- 学校の教育活動に満足している生徒・保護者・教職員の割合を把握し、教育活動の質を向上させる具体的な取組を進めるため
- 学校の教育活動に対する保護者・地域の理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めるため

2 対象・時期・実施方法

① 生徒

- ・令和7年12月1日(月)～12月23日(火)
- ・学年クラスルームから Google Forms にアクセスして実施（各学年で時間をとって行う）

② 保護者

- ・令和7年12月1日(月)～12月31日(水)
- ・sigfy のアンケート機能により実施

③ 教職員

- ・令和7年12月18日(木)職員会議にて Microsoft Forms にアクセスして実施
- ・職員会議に出席しない教職員は、12月23日(火)までに回答する

3 質問項目について

- 今年度から、アンケートの質問項目を以下のように見直した
 - ・1.～22.の質問は、令和7年度からの第4期千葉県教育振興計画を受け毎年実施される『千葉県教育振興計画の推進状況に係る調査』の調査項目に基づいて設定した。
 - ・23.～35.の質問は、令和6年度からの新しい学校教育目標（学校経営方針）の達成度を確認する質問として設定した。

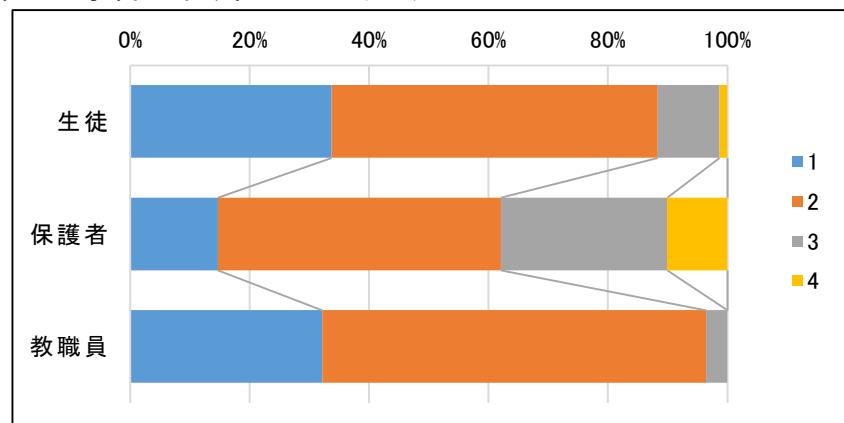
4 結果の公表

- 令和8年2月2日(月)、学校HP上に調査および分析結果を公開する
- 「柏三中だより2月号」（令和8年2月2日発行予定）にて、上記公開について周知する

1. 子どもたちの主体的な学びの促進(主体的に学習に取り組んでいるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	33.7%	54.6%	10.4%	1.3%	/
保護者	14.5%	46.7%	27.4%	9.9%	1.5%
教職員	32.1%	64.3%	3.6%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

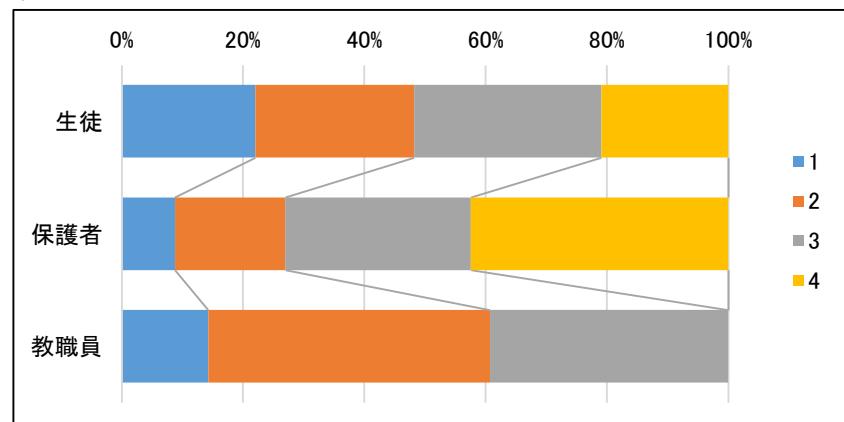


生徒・教職員に対し、保護者の肯定的意見が20ポイント以上低くなっています。「その他」を選んだ保護者からは「試験前は主体的に取り組んでいるが、普段はわからない」などのコメントがありました。家庭学習に継続的に取り組むことの意義を生徒たちに伝えていく必要がありそうです。

2. 読書活動の充実(読書に親しんでいるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	22.0%	26.2%	30.8%	20.9%	/
保護者	8.7%	18.1%	30.4%	42.2%	0.6%
教職員	14.3%	46.4%	39.3%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

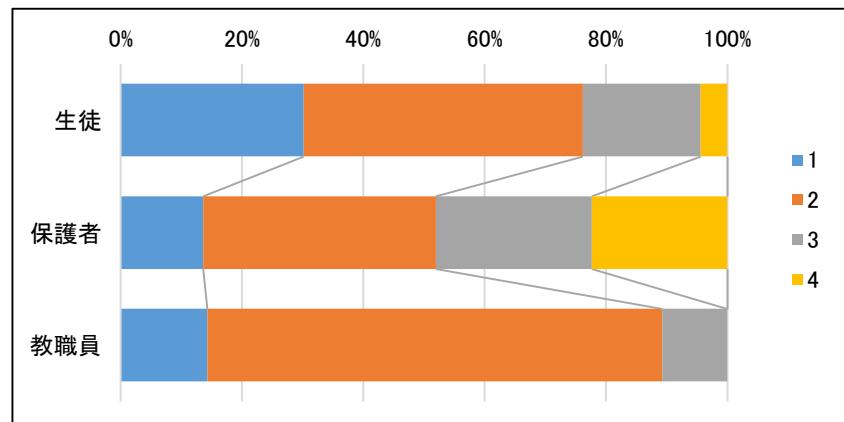


半分以上の生徒が「読書にあまり親しんでいない」と回答しています。学校では朝の「開智」の時間に10分間の読書の時間を設けていますが、家庭で本を読むことの少ない生徒が多いように思われます。様々なメディアから発信される魅力的なコンテンツに溢れる現代ですが、学校からは、読書の意義や魅力を積極的に発信したいと思います。

3. 外国語教育の充実(英語の学習に意欲的に取り組んでいるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	30.2%	46.0%	19.4%	4.4%	/
保護者	13.6%	38.3%	25.6%	22.3%	0.3%
教職員	14.3%	75.0%	10.7%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

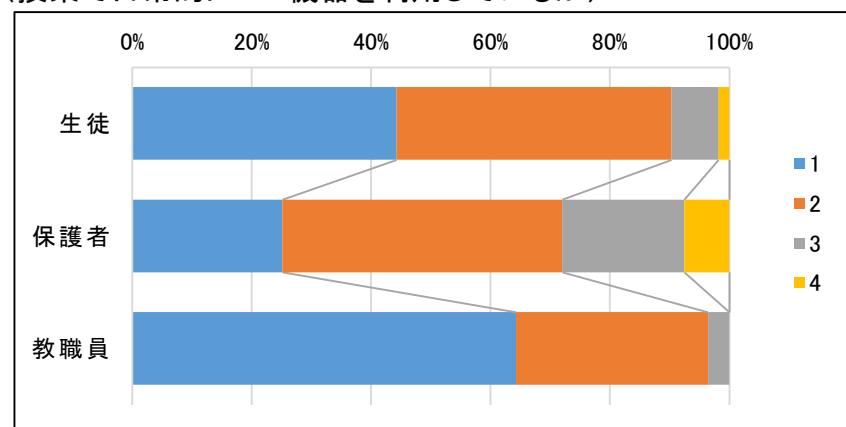


英語の授業では意欲的に活動している生徒たちの姿が多くみられます、知識や技能の定着において物足りなく感じている保護者が多いのかもしれません。8割弱の生徒が肯定的な回答をしています、「楽しい」「わかる」に加え、「身につく」授業づくりをめざし、授業改善を行います。

4. 授業におけるICT機器の効果的な活用(授業で日常的にICT機器を利用しているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	44.3%	46.0%	7.9%	1.8%	/
保護者	24.1%	44.9%	19.6%	7.2%	4.2%
教職員	64.3%	32.1%	3.6%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

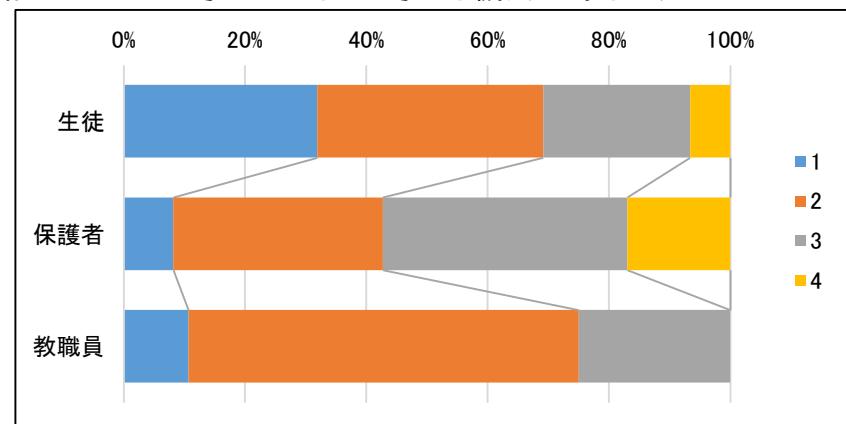


肯定的な回答が、生徒・教職員の9割以上を占めていますが、保護者は7割強にとどまっています。「その他」と回答した保護者の多くは、「わからない」としています。「効果的な活用」が進めば保護者の認識も高まることが期待できることから、活用のあり方を工夫し、保護者の肯定的意見が8割に届くことをめざします。

5. キャリア教育の充実(将来の職業や進路についてよく考えているか/考える機会があるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	31.9%	37.2%	24.2%	6.6%	/
保護者	8.1%	34.3%	40.1%	16.9%	0.6%
教職員	10.7%	64.3%	25.0%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

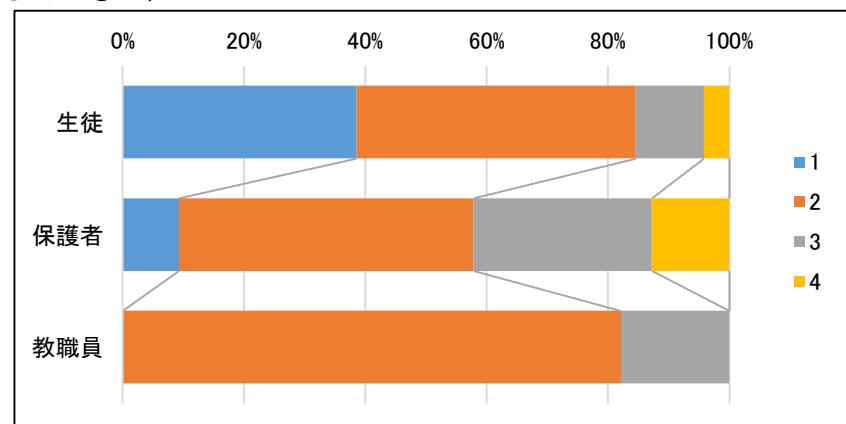


保護者の肯定的な意見が過半数を割っています。全学年共通のアンケートですので、特に1・2年生について、職業や進路について考える機会が少ないと感じている方が多いのではないかと思われます。1年次からのキャリア教育のあり方を検討し、系統的なキャリア教育の実践をめざします。

6. 道徳教育の充実(道徳の授業を大事にしているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	38.5%	46.0%	11.2%	4.2%	/
保護者	8.7%	45.8%	27.7%	12.0%	5.7%
教職員	0.0%	82.1%	17.9%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

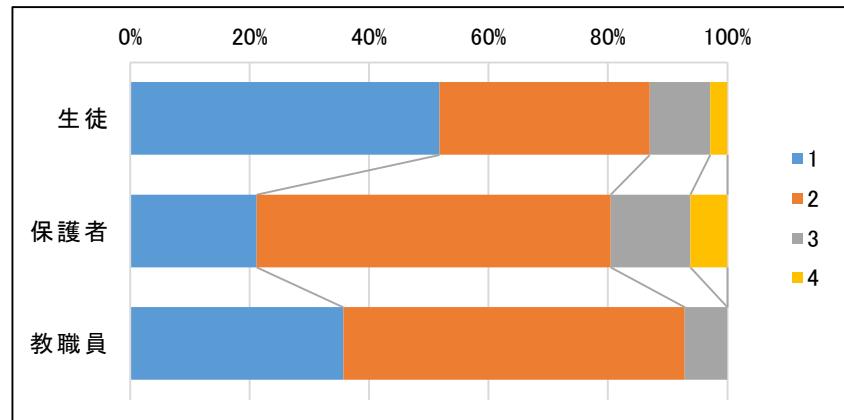


保護者の肯定的な回答が、生徒・教職員より20ポイント以上下回っています。「その他」と回答した保護者からは「道徳で何をしているかあまり聞いたことがない」という意見もありました。道徳の授業でどのようなことを行っているか、保護者に知ってもらうための取り組みを行いたいと考えます。

7. いじめへの対応(学校にはいじめがないか/学校はいじめを許さないか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	51.8%	35.2%	10.1%	2.9%	/
保護者	19.6%	54.8%	12.3%	5.7%	7.5%
教職員	35.7%	57.1%	7.1%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

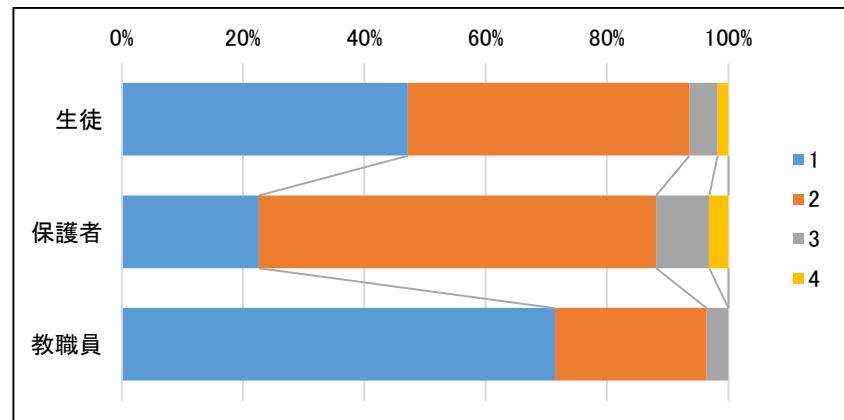


「その他」と回答した保護者が多く、「いじめがない」と簡単に断言してはならない「誰でもいじめの加害者・被害者になり得る」という意見がありました。否定的意見が0ポイントになることをめざすとともに、いじめと疑われる事案に対しては、迅速かつ丁寧に対応し、早期解決をめざします。

8. 不登校への対応(学校は教室に入れない生徒にも丁寧に対応しているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	47.1%	46.5%	4.6%	1.8%	/
保護者	17.2%	49.7%	6.6%	2.4%	24.1%
教職員	71.4%	25.0%	3.6%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

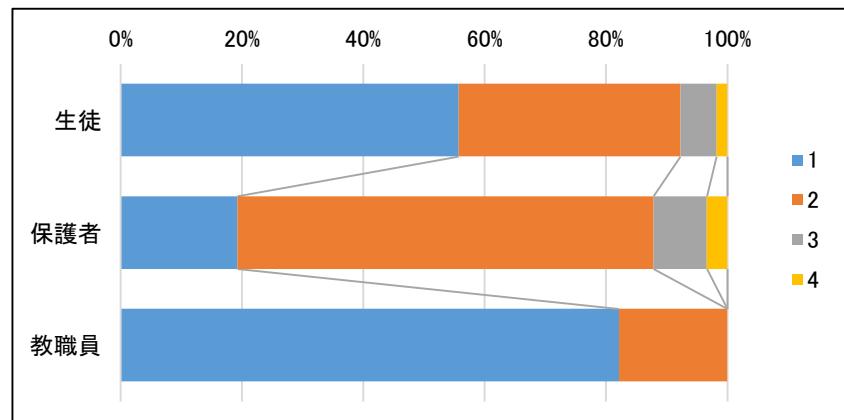


保護者の回答は「その他」が2割を超え、大半が「様子がわからない」と回答しています。本校では「学習支援室」を設置し、教室に入ることに抵抗を感じる生徒の居場所としています。教育支援センター豊四季台をはじめとする校外の施設団体とも連携し、不登校の生徒や保護者の悩みに寄り添い、サポートしていきます。

9. 相談体制の充実(学校には相談に乗ってくれる大人がいるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	55.7%	36.6%	5.9%	1.8%	/
保護者	17.2%	61.1%	7.8%	3.0%	10.8%
教職員	82.1%	17.9%	0.0%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

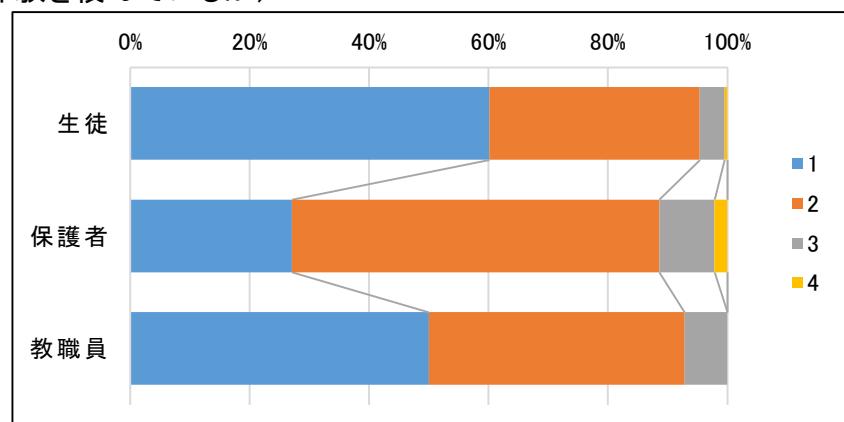


「そのとおりだ」と回答する生徒が過半数を超えていましたが、否定的な回答もあります。教職員の否定的回答は0ポイントですが、すべての生徒が安心して相談できる状況ではないことを肝に銘じます。「その他」と回答した保護者の意見には「先生による」というものもありました。すべての生徒にとって「相談しやすい先生がいる」学校をめざします。

10. 体験活動の推進(中学校でさまざまな体験を積んでいるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	60.1%	35.2%	4.2%	0.4%	/
保護者	26.5%	60.2%	9.0%	2.1%	2.1%
教職員	50.0%	42.9%	7.1%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

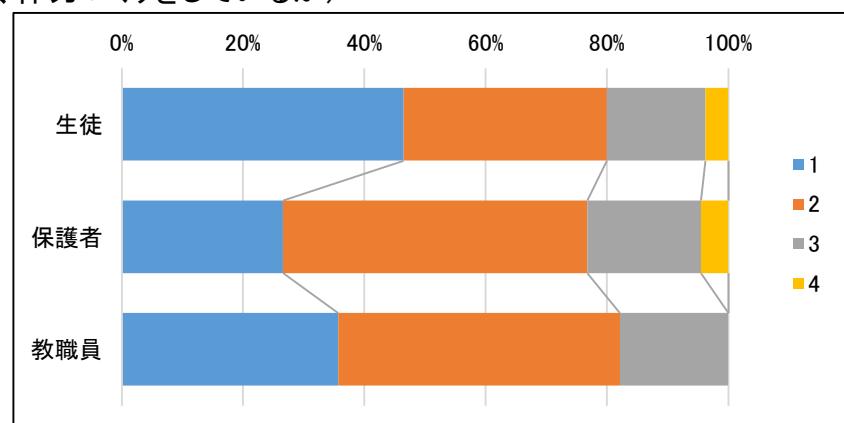


コロナ禍を経て見直しが進んだ学校での体験活動ですが、概ね肯定的な回答をいただきました。特筆すべきは、生徒の肯定的な回答は95ポイントを超えることです。生徒たちは大人が思う以上に新鮮な感動とともに中学校生活を過ごしているのかもしれません。

11. 健康・体力づくりの推進(健康を心がけ、体力づくりをしているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	46.5%	33.5%	16.3%	3.7%	/
保護者	26.5%	50.0%	18.7%	4.5%	0.3%
教職員	35.7%	46.4%	17.9%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

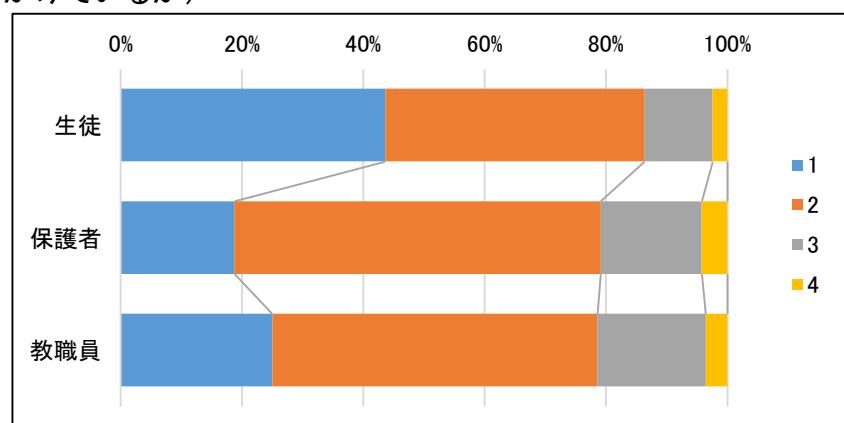


天気の良い昼休みにはグラウンドに出て元気に遊んでいる生徒の姿を見ることができます。運動部に所属している生徒は毎日のようにそれぞれの競技に打ち込んでいる様子がみられます。運動が好きではない生徒もいますので、体育の授業をとおして健康的な体づくりを支えていきたいと思います。

12. 感染症対策の徹底(感染症の予防を心がけているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	43.6%	42.7%	11.2%	2.4%	/
保護者	18.7%	60.2%	16.6%	4.2%	0.3%
教職員	25.0%	53.6%	17.9%	3.6%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

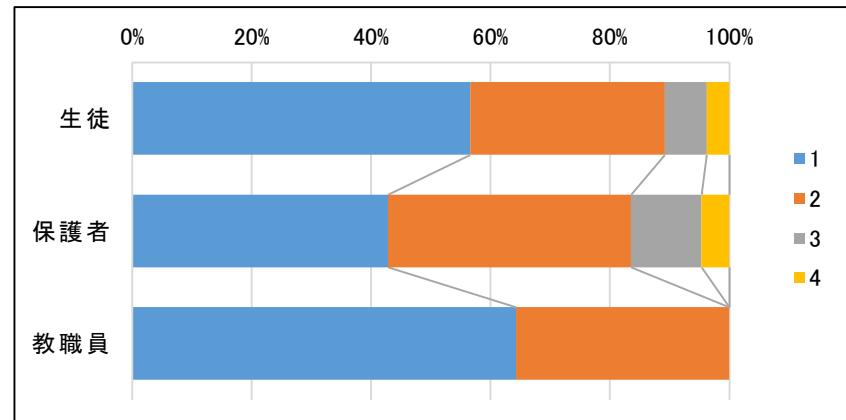


校内では保健委員を中心となり、手洗い・うがい・換気など促す呼びかけを行っていますが、保護者の意見には「家に帰つて来てからの手洗い・うがいを促しているが、やってくれない」というものもありました。八割程度の肯定的な回答が集まっていますが、この割合がさらに高くなるような啓蒙活動を考えてまいります。

13. 学校給食の充実(学校の給食を楽しみにしているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	56.6%	32.6%	7.0%	3.7%	/
保護者	41.6%	39.5%	11.4%	4.5%	3.0%
教職員	64.3%	35.7%	0.0%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

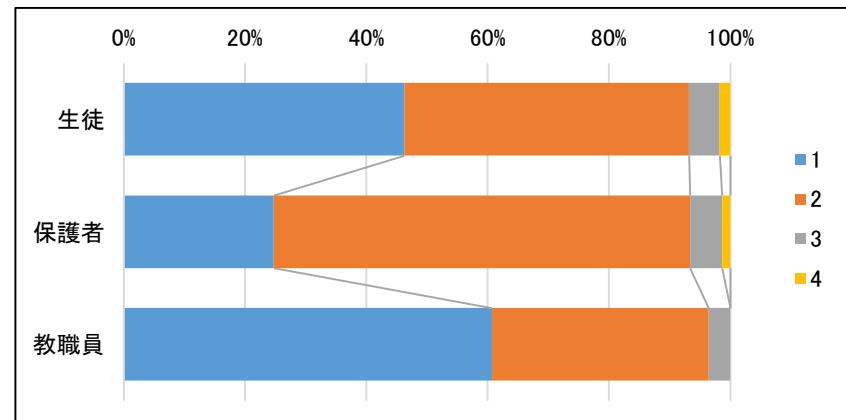


概ね肯定的な回答となっていますが、保護者の意見には「量が少ないと言っている」「苦手な食材が多く使われていてほとんど食べられない日もある」などの記載もありました。食の好みにすべてお応えするのは難しいところです。健康と安全に関することでお気づきの点がありましたら、遠慮なく学校にご連絡ください。

14. 特別支援教育の充実(学校はインクルーシブ教育を大切にしているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	46.3%	46.9%	5.1%	1.8%	/
保護者	22.6%	62.7%	4.8%	1.2%	8.7%
教職員	60.7%	35.7%	3.6%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

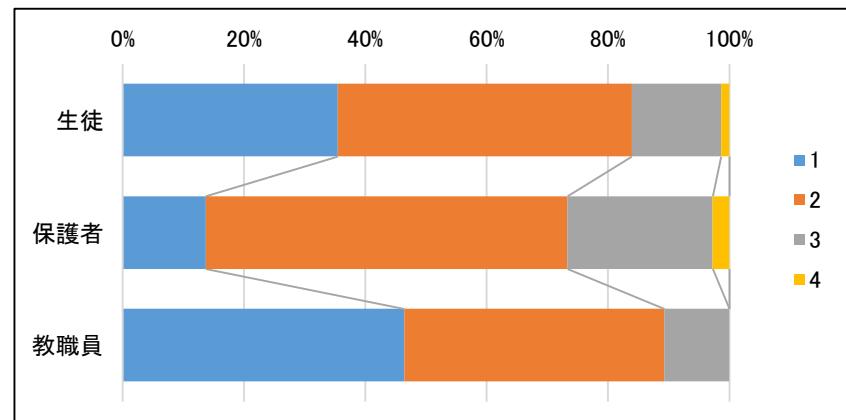


保護者の意見に「表向きは説明されているが、実際の所は分からない」というものがありました。保護者の六割が「どちらかといえばそうだ」と回答している理由が端的に示されていると推察します。まずは教職員の肯定的な回答が100ポイントにすることから始めなければなりません。

15. 学校の特色を生かす教育の充実(学校は、特色のある教育活動を行っているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	35.5%	48.5%	14.8%	1.3%	/
保護者	12.0%	52.4%	21.1%	2.4%	12.0%
教職員	46.4%	42.9%	10.7%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

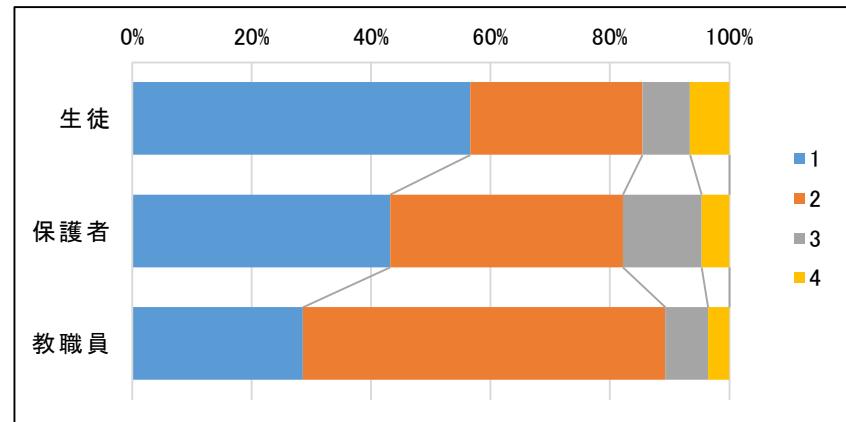


特別支援教育・不登校支援・教育相談体制の充実を図り、生徒の意見を反映した学校生活のきまりの見直しなどに取り組んできました。校内の取り組みにとどまらず、三校合同学校運営協議会と連携しながら、生徒たちが誇れる「学校の特色」を創出し、地域の理解を得ることが、今後の課題です。

16. 部活動の充実(部活動は楽しくやりがいがあるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	56.6%	28.9%	7.9%	6.6%	/
保護者	39.5%	35.5%	12.0%	4.2%	8.7%
教職員	28.6%	60.7%	7.1%	3.6%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

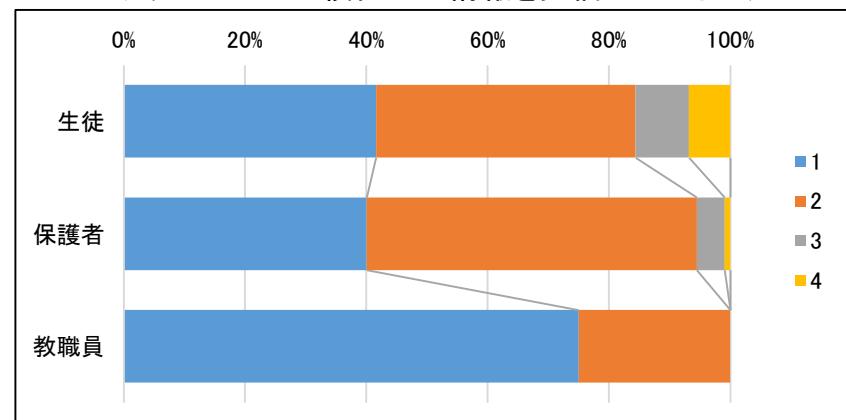


八割以上の肯定的な回答が得られました。そんな中、保護者から「もう少し伸び伸びとできればいいのに」「活動自体が少ないので成績が残せず、少し残念」「活動日数をもう少し増やしてほしい」という意見もありました。令和8年度からの部活動ガイドラインをもとに、満足感の高い部活動の地域展開を進めます。

17. HP等を通じた積極的な情報配信(学校はHPやクラスルームで積極的に情報を発信しているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	41.6%	42.7%	8.8%	6.8%	/
保護者	39.5%	53.6%	4.5%	0.9%	1.5%
教職員	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

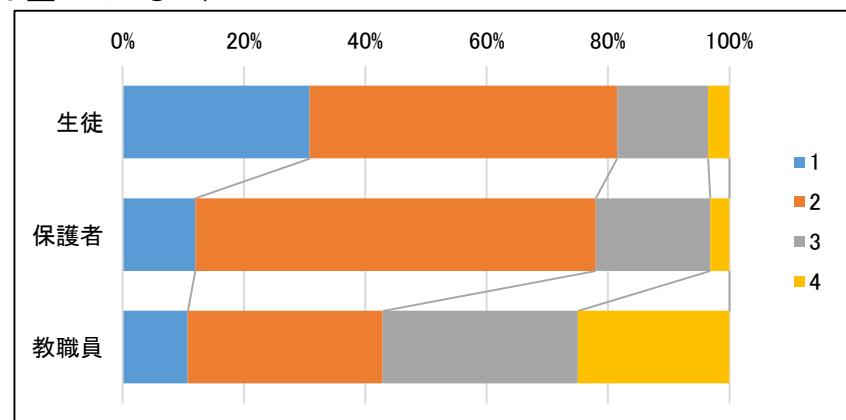


学校HPでは「活動の様子」を教員が交代で担当し、日々更新しています。教職員の肯定的意見は100ポイントでしたが、生徒の肯定的回答は80ポイント強にとどまりました。クラスルームの積極的活用により情報発信の機会を増やし、そのギャップを埋めることができればと考えます。

18. 施設・設備の充実(学校の施設や設備は整っているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	30.8%	50.7%	15.0%	3.5%	/
保護者	11.4%	63.3%	18.1%	3.0%	4.2%
教職員	10.7%	32.1%	32.1%	25.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

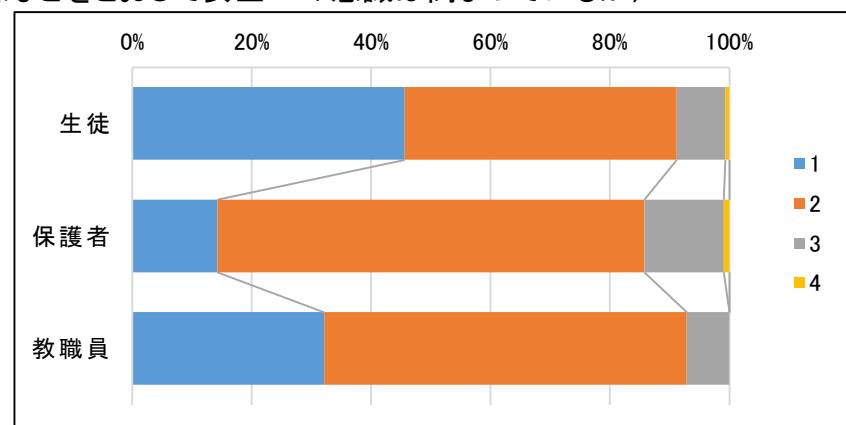


保護者意見で、和式トイレや更衣室に関するご指摘がありました。校舎内のトイレの洋式化は進んでいますが、体育館などの施設についても市へ要望いたします。更衣室については設置の難しい状況があります。校内で着替えなければならないシーンを極力減らすためのルール作りを検討していきます。

19. 安全指導の充実(安全指導や防災訓練などをとおして安全への意識は高まっているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	45.6%	45.6%	8.1%	0.7%	/
保護者	13.6%	68.1%	12.7%	0.9%	4.8%
教職員	32.1%	60.7%	7.1%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

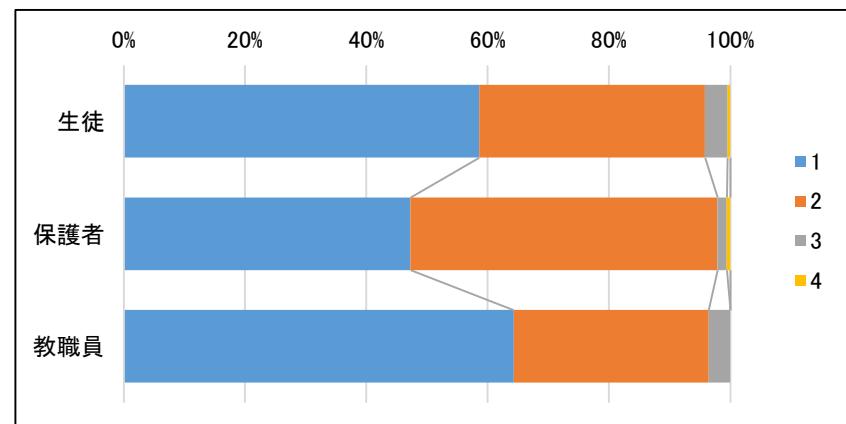


今年度は4月に「スクエードストレイト交通安全教室」を実施しました。また年3回の避難訓練についても、その都度想定される状況を変えており、職員にとっての非常時対応を確認しています。次年度は「スクエードストレイト」に代わる交通安全指導を展開する予定です。

20. 学校・保護者間等における連絡手段のデジタル化(学校との間における連絡手段のデジタル化が進んでいるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	58.6%	37.2%	3.7%	0.4%	/
保護者	47.3%	50.6%	1.5%	0.6%	0.0%
教職員	64.3%	32.1%	3.6%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

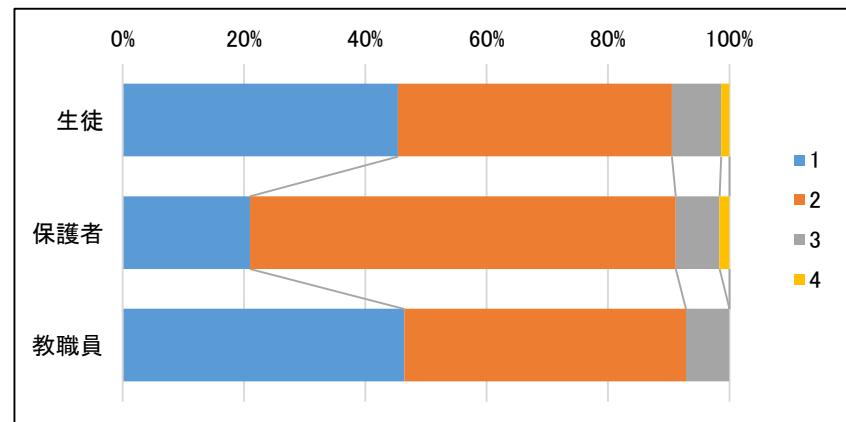


市で導入された「sigfy」により、おたよりの配信など、保護者連絡のデジタル化は進んでいます。一方、個人情報保護の観点から、デジタル化が認められないものについては、従来どおり紙媒体による連絡となっています。早急な対応が必要な連絡については、今後も電話での連絡をお願いいたします。

21. 多様性への理解の推進(学校には、互いの多様性を認め合う風土があるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	45.4%	45.2%	8.1%	1.3%	/
保護者	19.3%	64.5%	6.6%	1.5%	8.1%
教職員	46.4%	46.4%	7.1%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

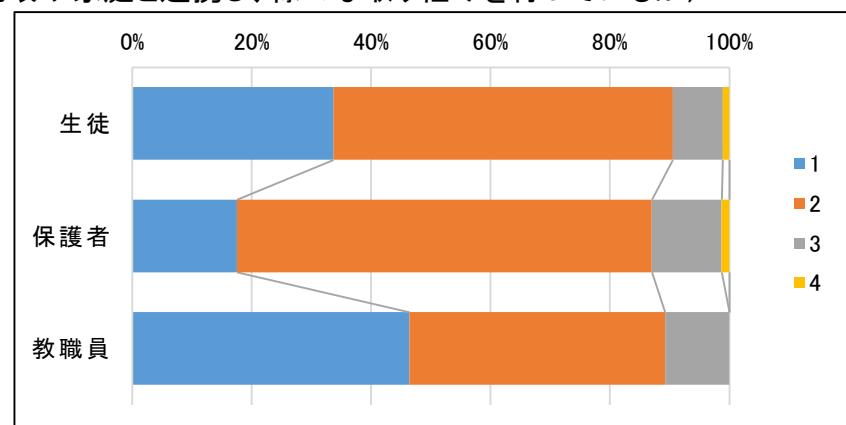


九割の肯定的ご回答を得ていますが、「そのとおりだ」と回答する保護者は20ポイント強にとどまりました。保護者の意見には「影での悪口が凄くて心配」というものもありました。23.で類似した質問をしていますが、回答の状況が微妙に異なります。21.では「学校の雰囲気」を聞いていますが、教職員の回答は肯定的な割合が高くなっています。

22. 地域・家庭との連携の強化(学校は、地域や家庭と連携し、様々な取り組みを行っているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	33.7%	56.8%	8.4%	1.1%	/
保護者	16.3%	64.5%	10.8%	1.2%	7.2%
教職員	46.4%	42.9%	10.7%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

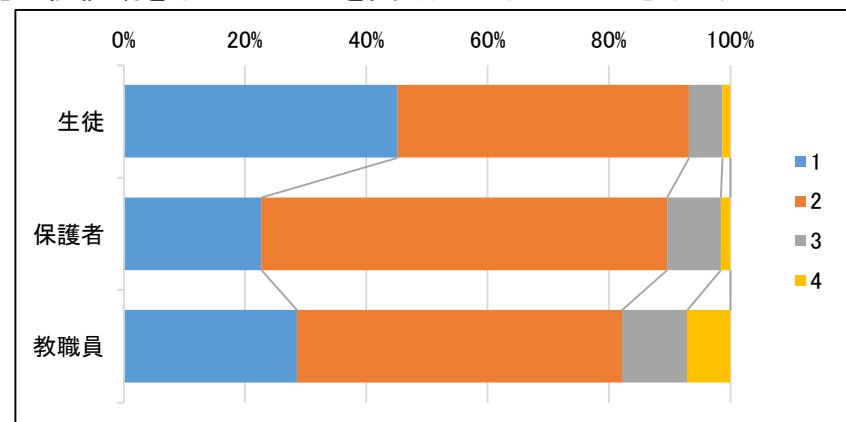


九割ほどの肯定的回答が得られました。「おはよう3days」や「Let's Go-MIHIROI」など、地域の方と一緒に活動する機会をいただいている。三校合同学校運営協議会では、地域と学校との連携について絶えず議論がなされています。中学生の地域貢献について、積極的な情報発信をしていきたいと思います。

23. 多様性を理解する力(自分とは違う意見や価値観をもつ人のことを受け入れることができるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	45.2%	48.0%	5.5%	1.3%	/
保護者	22.3%	65.7%	8.7%	1.5%	1.8%
教職員	28.6%	53.6%	10.7%	7.1%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

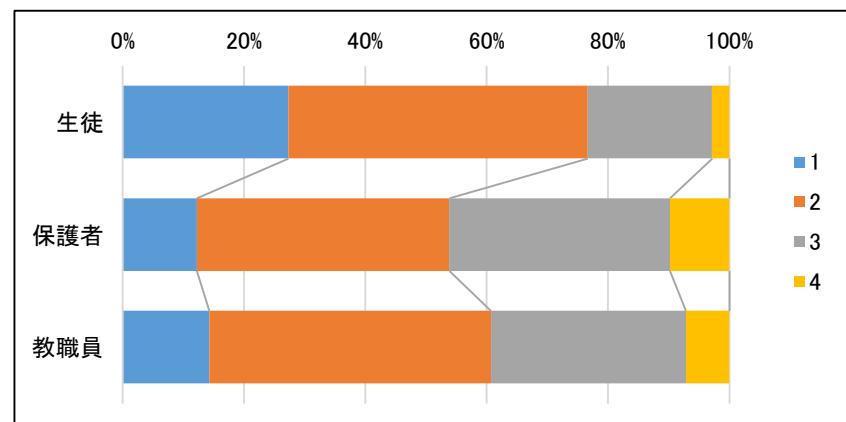


類似する21.の質問では「学校の雰囲気」を尋ねましたが、23.は「個人の力」を問う質問となっています。教職員の肯定的な回答が減少しています。一方、生徒の回答にさほど変化は見られません。個別のケース対応を行う教職員の場合、全体よりも個人の課題に意識が向いているのではないかと推察されます。

24. 課題発見力・課題解決力(深く学びたいこと/身につけたいことがあり、そのために何をすべきかを考え、実行に移す力があるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	27.3%	49.3%	20.5%	2.9%	/
保護者	12.0%	41.0%	35.8%	9.6%	1.5%
教職員	14.3%	46.4%	32.1%	7.1%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

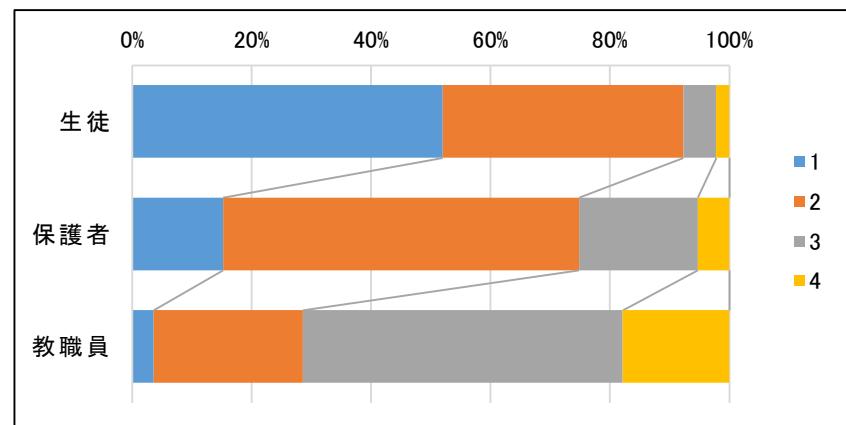


「学びに向かう力」を問う質問です。生徒の回答に対し、特に保護者の肯定的回答が20ポイント強減少しているのが興味深いところです。保護者がかける生徒への期待の大きさを示しているのかもしれません。教職員の肯定的回答が六割となっていきます。次年度は七割を超えることを目標に、生徒の知的好奇心を誘う授業づくりをめざします。

25. ITスキル(SNS・ネット等の危険性を理解しており、正しい情報を選んだり、誤解を生まない情報を発信したりすることができるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	52.0%	40.3%	5.5%	2.2%	/
保護者	14.8%	57.8%	19.3%	5.1%	3.0%
教職員	3.6%	25.0%	53.6%	17.9%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

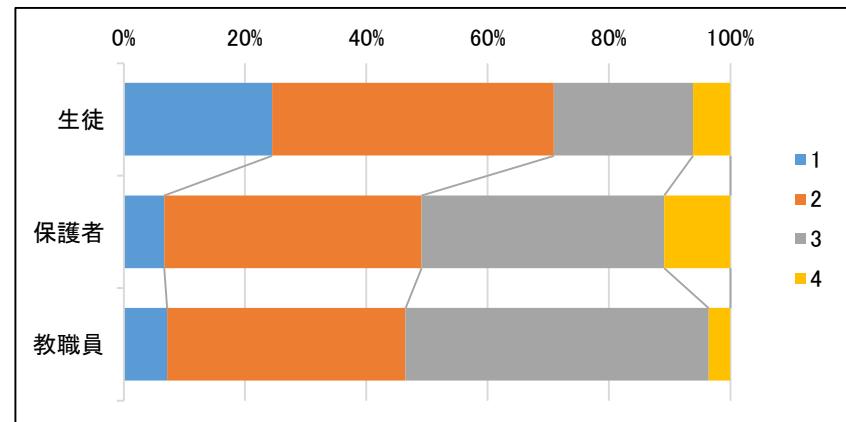


生徒と教職員の回答のギャップが最も大きかった質問です。60ポイント以上のギャップは「大半の生徒は問題を起こさない(可能性が高い)ものの、ネットトラブルに対応する教職員は辟易としている」ことを表すのかもしれません。子どものSNS禁止を決定した国も散見される中、子どもがスマホを持つことの危険性を伝えることは、大人の責務であると考えます。

26. 論理的思考力(物事を筋道立てて考える力があるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	24.4%	46.5%	22.9%	6.2%	/
保護者	6.6%	42.2%	39.8%	10.8%	0.6%
教職員	7.1%	39.3%	50.0%	3.6%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

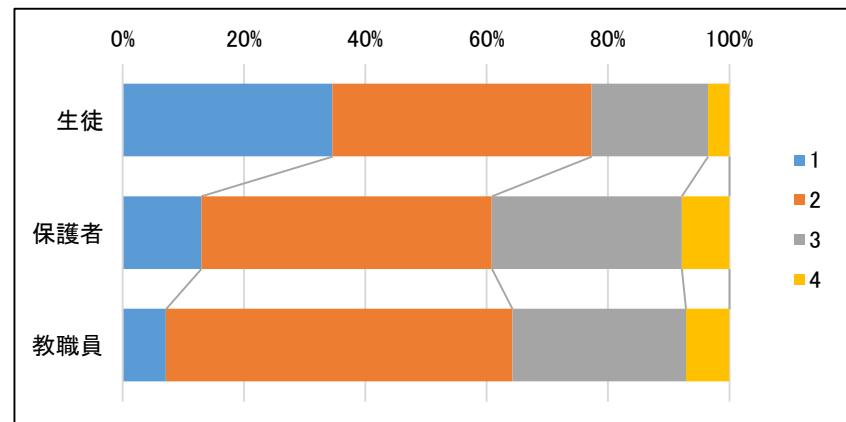


七割の生徒が肯定的に回答しているのに対し、保護者・教職員の肯定的回答は半分にとどまっています。論理的思考力を養う教科は国語だと言われます。感情語のみでコミュニケーションを完結させる生徒の論理的思考力は育ちません。生徒と話をするときの傾聴の姿勢や、行為の理由や背景を引き出す会話のスキルを高める必要があります。

27. グリッドレジエンス(物事に挑戦する意欲があり、目標達成のためにいろいろ試しながら粘り強く取り組むことができるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	34.6%	42.7%	19.2%	3.5%	/
保護者	13.0%	47.9%	31.3%	7.8%	0.0%
教職員	7.1%	57.1%	28.6%	7.1%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

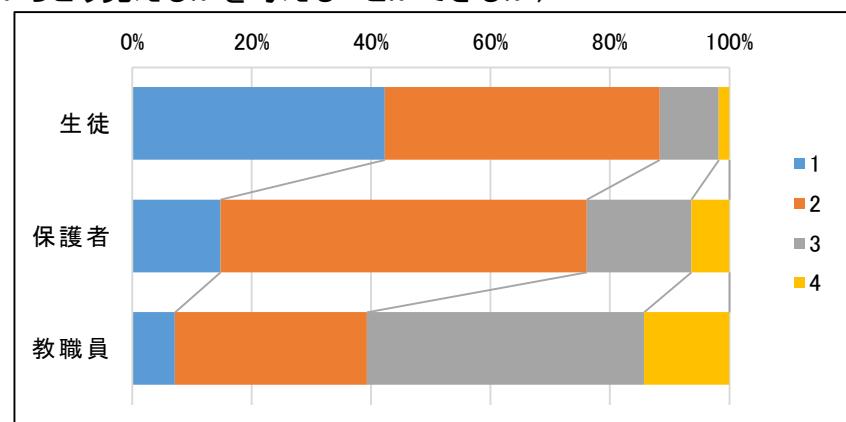


チャレンジ精神や粘り強さを問う質問に対する「そのとおりだ」という回答について、生徒の自己評価と保護者・教職員の自己評価との間の差がありました。アンケートの結果から、より高みをめざしてほしいという大人の願いを感じることができます。生徒の自己評価を尊重しつつ、飛躍のための適切な助言を与えるスキルを磨く必要がありそうです。

28. メタ認知力(自分の発言や行動が他人からどう見えるかを考えることができるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	42.3%	46.0%	9.9%	1.8%	/
保護者	14.8%	61.1%	17.5%	6.3%	0.3%
教職員	7.1%	32.1%	46.4%	14.3%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

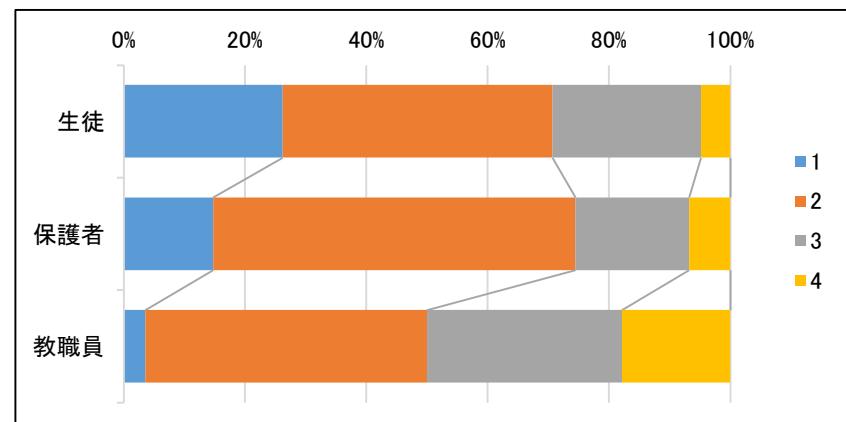


「自分の言動が他人からどう見えるか」が不安な生徒が多くいることを表しているともれますし、「生徒たちは、周囲の目を気にせずに自己主張ができる」ととらえている教職員が多いともれます。「メタ認知」の大切さは日頃から伝えていますので、生徒の肯定的回答が90ポイント弱に達しているのは嬉しいことです。

29. 自制心(たとえ気持ちが高ぶっても、自分の気持ちを落ち着かせ、冷静に発言・行動するようにしているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	26.2%	44.5%	24.4%	4.8%	/
保護者	14.5%	58.4%	18.4%	6.6%	2.1%
教職員	3.6%	46.4%	32.1%	17.9%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

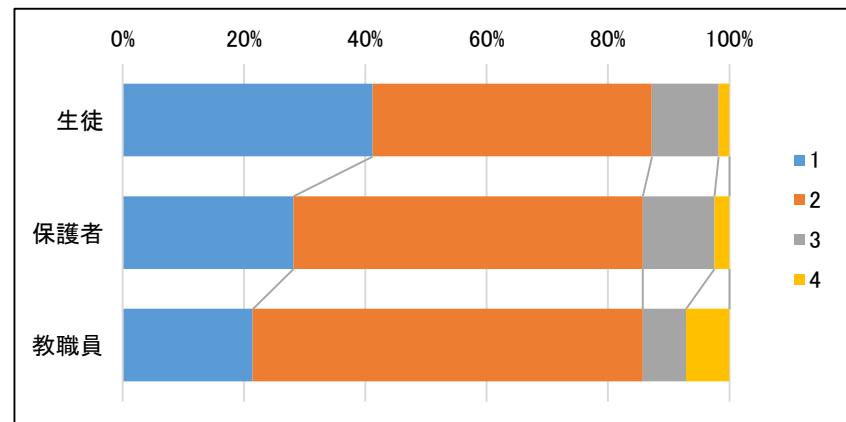


保護者から「学校ではできていると思うが、家庭では……」という意見が複数寄せられました。自宅でわがままが出せるのは、自宅が自分の居場所だからです。むしろ逆の場合、問題は根深くなります。自制心を育むためには「短期的目標達成の積み重ね」が効果的と考えます。学校は、日々の取り組みを大切にする生徒への「承認」を大切にしたいと思います。

30. 協働する力(誰とでも協力して学習したり、係の仕事に取り組んだりする力があるか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	41.2%	46.0%	11.0%	1.8%	/
保護者	28.0%	57.2%	11.7%	2.4%	0.6%
教職員	21.4%	64.3%	7.1%	7.1%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

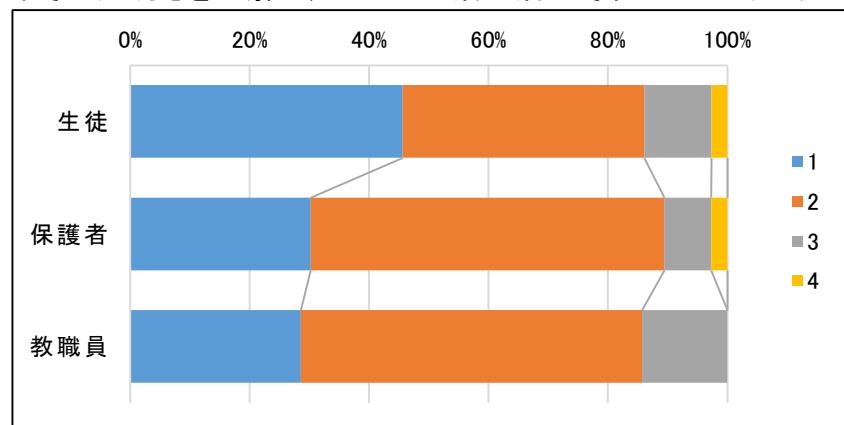


概ね肯定的な回答が得られました。本校では協働学習を積極的に取り入れており、成果として表れているのではないかと思います。協働的な学びの機会を引き続き確保するとともに、その内容を精錬することにも努め、肯定的な回答が90ポイントを超えることをめざします。

31. Smile(学校教育目標の「Smile」について、その大きさを理解し、日々の生活に活かそうとしているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	45.6%	40.5%	11.2%	2.6%	/
保護者	30.1%	59.0%	7.8%	2.7%	0.3%
教職員	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

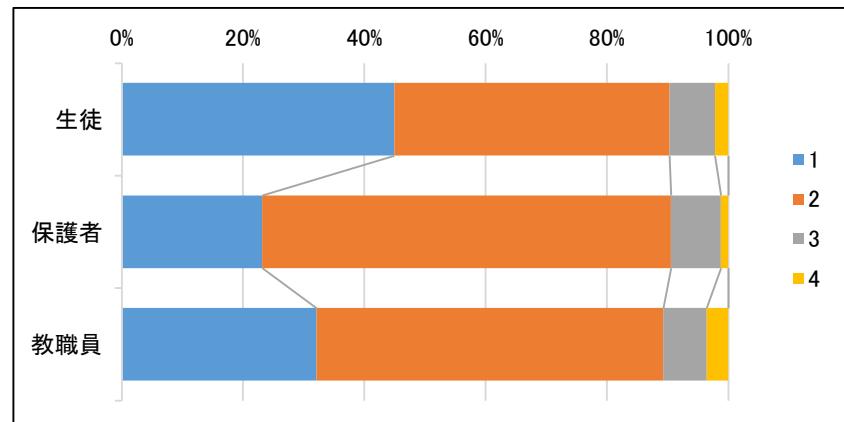


「smile」は、学校教育目標の中でも最も優先順位の高いものです。肯定的な回答が多く寄せられてはいますが、100ポイントに近づける努力を怠ってはならないと考えます。たとえ躊躇ことがあっても、困難を乗り越えていくことができる生徒を育むために、教育相談の機会を大切にし、笑顔がたくさん見られる学校をめざします。

32. Diversity(学校教育目標の「Diversity」について、その大きさを理解し、日々の生活に活かそうとしているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	44.9%	45.4%	7.5%	2.2%	/
保護者	22.9%	66.6%	8.1%	1.2%	1.2%
教職員	32.1%	57.1%	7.1%	3.6%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

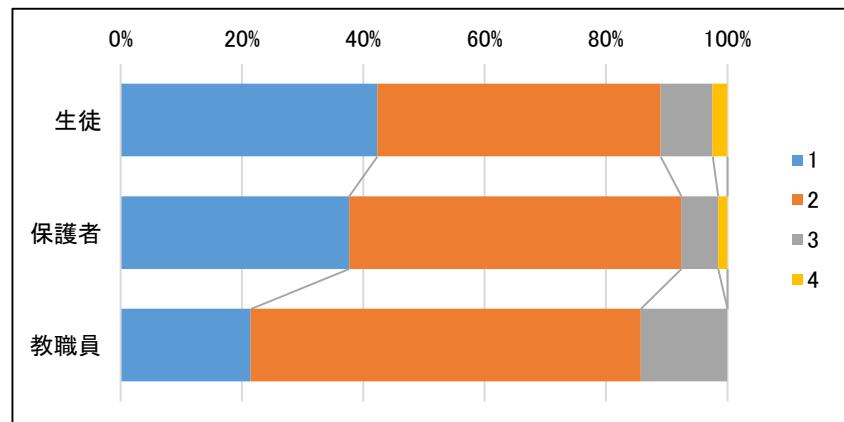


多様性の理解は、対話や協働を通じて豊かな社会を築くために必要なスキルです。多様なありようを理解することは、思春期の揺れ動きがちな自分自身を大切にすることにもつながります。生徒たちには「Diversity」という単語が浸透しているようです。「そうではない」の回答が0ポイントになることをめざしたいと思います。

33. Update(学校教育目標の「Update」について、その大きさを理解し、日々の生活に活かそうとしているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	42.3%	46.7%	8.6%	2.4%	/
保護者	37.3%	54.2%	6.0%	1.5%	0.9%
教職員	21.4%	64.3%	14.3%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

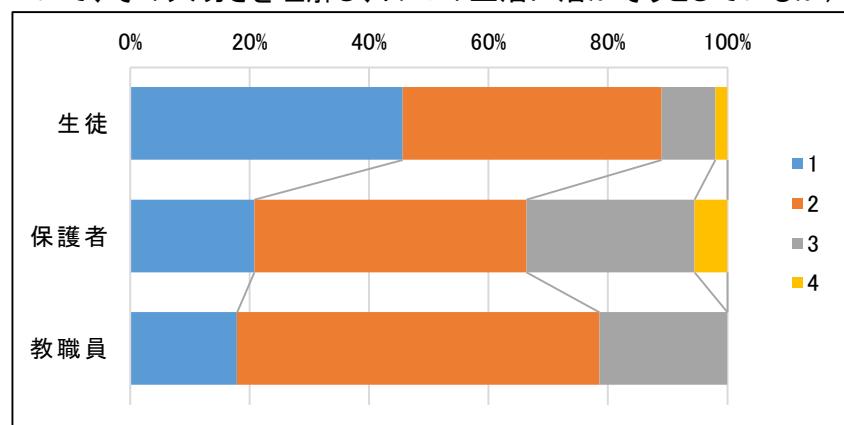


「Update」に関する保護者への質問は、「お子さんがたくましく成長していると感じられる」としています。生徒たちの「成長への意志」、保護者の「成長の実感」は九割に上りました。この気持ちに応えるのが学校の役割です。この水準を維持しつつ、「前向きになれない生徒」をいかに支援するかについても、より良い在り方を模索します。

34. Challenge(学校教育目標の「Challenge」について、その大きさを理解し、日々の生活に活かそうとしているか)

R7	1	2	3	4	5
生徒	45.6%	43.4%	9.0%	2.0%	/
保護者	20.5%	44.9%	27.7%	5.4%	1.5%
教職員	17.9%	60.7%	21.4%	0.0%	/

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)

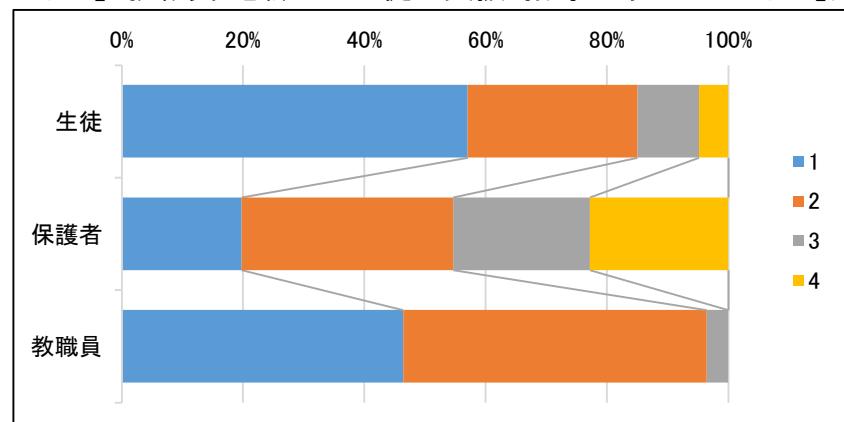


「4つのキーワード」の中で、生徒と保護者とのギャップが最も大きく現れましたが、「Challenge」に関する保護者への質問が、「お子さんは、何事にも積極的に挑戦する心をもっている」としていることが原因です。「何事にも」という言葉により肯定的答へのハードルが上がってしまったようです。一つでも挑戦できるものがあることは、尊いことだと思われます。

35. 四つのキーワード(生徒・保護者「覚えているか」/教職員「意識して生徒の支援・指導にあたっているか」)

R7	1	2	3	4	5
生徒	57.0%	28.0%	10.1%	4.8%	/
保護者	19.3%	34.0%	22.0%	22.3%	2.4%
教職員	46.4%	50.0%	3.6%	0.0%	/

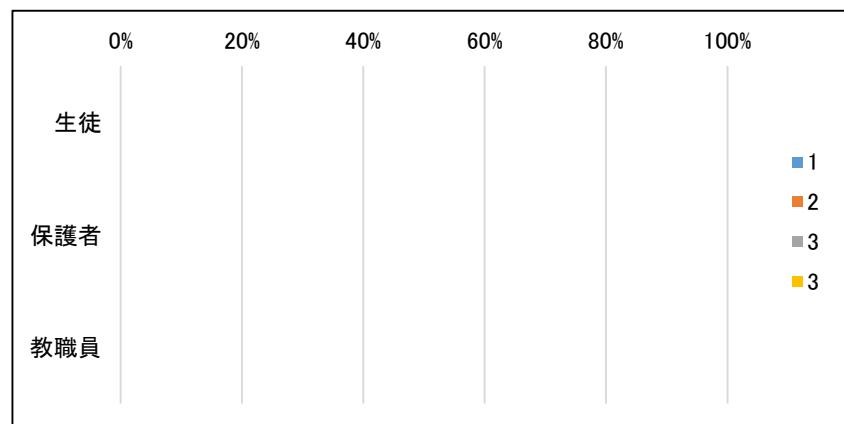
- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)



昨年度から新しい学校教育目標を掲げており、そのキーワードの認知度を確認する質問でした。教職員の肯定的答を100ポイントにするとともに、保護者も80ポイントを超えることをめざしたいと思います。キーワードではなく、3つの文言をご存じの保護者の方がいらっしゃいました。嬉しい限りです。

R7	1	2	3	4	5
生徒					
保護者					
教職員					

- 1 そのとおりだ
- 2 どちらかといえばそうだ
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない
- 5 その他(保護者のみ選択肢あり)



令和7年度 教育活動アンケートまとめ

【回答数／回答率】 生徒 454名／83.2% 保護者 332名／60.8% 教職員 28名／90.3%

- A 生徒・保護者・教職員の肯定的回答がすべて 80 ポイント以上……「◎」がついています
 - B 生徒の肯定的回答が 90 ポイント以上……「○」がついています
 - C 保護者の肯定的回答が 90 ポイント以上……「○」がついています
 - D 教職員の肯定的回答が 90 ポイント以上……「○」がついています
 - E 生徒・保護者・教職員の肯定的回答がすべて 70 ポイント以下……「×」がついています
 - F 生徒の肯定的回答が 60 ポイント以下……「×」がついています
 - G 保護者の肯定的回答が 60 ポイント以下……「×」がついています
 - H 教職員の肯定的回答が 60 ポイント以下……「×」がついています
 - I 生徒と保護者の肯定的回答のギャップが 20 ポイント以上……「▲」がついています
 - J 生徒と教職員の肯定的回答のギャップが 20 ポイント以上……「▲」がついています
 - K 保護者と教職員の肯定的回答のギャップが 20 ポイント以上……「▲」がついています
 - L 保護者の「その他」という回答が 5 ポイント以上……「？」がついています

学校教育目標（学校経営方針）に係る質問項目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
23. 多様性を理解する力	◎	○										
24. 課題発見力・課題解決力							×		▲			
25. I Tスキル			○							▲	▲	
26. 論理的思考力							×	×	▲	▲		
27. グリッドレジリエンス												
28. メタ認知力							×		▲	▲		
29. 自制心							×		▲	▲		
30. 協働する力	◎											
31. Smile	◎											
32. Diversity	◎	○										
33. Update	◎		○									
34. Challenge									▲			
35. 四つのキーワード					○			×	▲		▲	

令和7年度 教育活動アンケート 考察

- 「不登校への対応」や「相談体制の充実」、「多様性への理解の推進」などの項目で、生徒および教職員の肯定的な回答が多くなっています。殊に「相談体制の充実」について、「そのとおりだ」と回答する教職員は80ポイントを超えており、生徒たちに寄り添う対応を心がけている教職員が多いことがわかります。しかし、生徒・保護者の回答をみると、必ずしも教職員の思いが伝わっているとは言い切れません。信頼される教職員になるためには、一人ひとりの教職員が、気持ちだけにとどまらず、日頃の発言や行動に注意を払う必要があります。そのためにも、教職員間の連携を密にし、相互に高め合う教職員集団をめざします。
- 「読書活動の充実」への肯定的回答が、生徒・保護者・教職員すべてにおいて少ない結果となりました。その中において、教職員の肯定的な回答がやや多かったのは、図書委員会が積極的にイベントを企画していること、それを楽しみにしている生徒の姿がみられるからだと思われます。他方で「授業におけるＩＣＴの効果的な活用」への肯定的回答は生徒にも多く、いわゆる「活字ばなれ」「デジタルメディアへの移行」を如実に感じる結果となりました。読書は語彙力を高めるとともに、様々な価値観を享受したり、視野を広げたり、想像力を高めたりすることにも効果的です。読書を楽しむ習慣を養うための取り組みを考えてまいります。
- 生徒の回答に対し、保護者・教職員に否定的な回答が多くなっていたものに「論理的思考力」がありました。大人が期待する水準に、生徒の実態が達していないことを表しているともとれますですが、一方で「年端の行かない中学生に対する大人の期待が大きすぎる」ことを表しているのかもしれません。ギャップを埋めるには「対話」しかないのですが、大人の側からの一方的な押しつけになってはいないか、注意したいところです。
- 「ＩＴスキル」を問う質問においても「論理的思考力」と同様、生徒の回答に対し、保護者・教職員に否定的な回答が多くなっていました。「論理的思考力」は「感情語のみに頼るコミュニケーション」を続けていては育たないものですが、「大人の目の触れないところで、感情語により罵り合う」場に陥りやすいのが「ＳＮＳ」です。子どもの「ＩＴスキル」に不安を感じている保護者が、子どもにスマホを買い与えています。また教職員は、GIGAスクール構想のもと、子どもたちに端末を積極的に活用させています。このしわ寄せが子どもたちの未来に及ぼすよう、大人には、子どものスクリーンタイムを適切に管理することが求められるを考えます。今後は「デジタルシティズンシップ教育（デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力を養う教育）」を積極的に行ってまいります。
- 各質問で「その他」と回答した保護者の記述には「わからない」と答えたものが多くありました。中でも「不登校への対応」については飛び抜けて多く、「学校の特色を生かす教育の充実」「相談体制の充実」「特別支援教育の充実」「部活動の充実」「多様性への理解の推進」等の質問にも多く寄せられています。「わからない」ことが保護者の不安へつながっていくこともあることから、学校のことを保護者の皆様にご理解いただくための情報発信を、より積極的に行う必要がありそうです。
- 昨年度からの新しい学校教育目標に係る「四つのキーワード」について、多くの生徒がその大切さを理解し、生活に活かそうとしていることがわかりました。本校生徒たちの素直さには日頃から感心させますが、そんな生徒たちと共に過ごせることについて、保護者ならびに地域の皆様への感謝を、学校が忘れてはならないと思います。皆様との「エンパシー」を大切にし、信頼に値する学校づくりに努めてまいります。